

普及活動情勢報告（令和元年 10月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

決算書を上手に活用して経営改善につなげよう・・・第2回若者講座の開催・・・



9月20日に宿毛市宇須々木で第2回若者講座を開催し、土佐文旦後継者と女性農業者12名が参加しました。

既に親世代から経営を継承し、税理士に確定申告書の作成を依頼している後継者も多く、経営分析で改善点や課題などを確認し、儲ける農業の実践と、分析によって経営内容を把握することを目的に講習会を開催しました。

10月から消費税軽減税率が導入されることから「消費税率の変更でどう変わるのか」との質問が出され、参加者の関心が高いことが分かりました。

スマート農業で女性の活躍を目指す・・・女性農業者によるアシストスーツの試着会・・・



9月20日に宿毛市宇須々木でサポータータイプのアシストスーツの試着会を行い、文旦を栽培する女性農業者7名が参加しました。

試着当初は「身体が突っ張り動き難い」、「楽な気がしない」などの声が聞かれましたが、サイズの調整や使用のコツがわかってくると、「腰への負担が軽くなる気がする」、「慣れてくると身体が楽になるかもしれない」など、好意的な意見に変わり、長期に貸し出しをすることになりました。

今後、振興センターでは貸し出し農家の使用状況を聞き取り、使用時の感想や問題点を調査します。

立地条件が良ければ、どんな年でも収量安定！・・・JA西土佐支所栗部会総会・・・



9月20日、JA西土佐支所で栗部会総会が行われ、生産者20名が参加しました。

農業改良普及課からは、日照条件がよい園地と不良園の収量と樹冠拡大状況の推移を気象データと併せて示しました。気象に影響されずに収量を安定させるには、適地植栽と中庸な結果母枝を選ぶことが重要であることを説明しました。昨年に続いて今年も不作傾向のため、生産者は熱心に耳を傾けてくれました。

グリーンレモン産地化に向けた市場視察・・・大方支所施設柑橘部会・・・



9月26日に、グリーンレモン産地化に向けて、生産者・関係機関含め8名が豊洲市場へ視察に行きました。

市場関係者から、黒潮町産のレモンは高品質との評価をもらい、農業者からはグリーンレモンの消費者層や他産地の状況等について多くの質問が出ました。輸入や他産地のレモンの入荷・販売状況の確認や、仲卸の話聞く中で産地化に向けての課題が整理できました。

農業改良普及課は、グリーンレモン産地化へ向けて、今後もレモン栽培を始める生産者へ情報提供を行っていきます。

労力・コスト減につなげよう・・・ブロッコリー実証ほの定植・・・



10月4日と17日に、四万十市と土佐清水市の集落営農組織のほ場で、ブロッコリー実証ほの定植を行いました。

実証試験では、育苗に使用するセルトレイの穴数を増やすことで、育苗に係る労力とコストの削減が期待できることから、セルトレイの規格を128穴(慣行)と200穴(実証)で育苗しました。

今後は、生育調査や農家への聞き取り調査などを行い、産地に合わせた技術の検討を行っていきます。

経営計画の目標に近づくために・・・三原村サポートチーム・・・



10月17日、三原村において、農業次世代人材投資事業経営開始型を活用している新規就農者のほ場にて、サポートチームで聞き取りを行いました。

就農状況報告会後の作業状況の確認や中間評価会で出された課題を共有した後、今後の作業内容や計画等について聞き取りを行いました。

農業改良普及課からは、収穫後の剪定方法や栽培管理等について情報提供を行いました。

今後は、作物毎の指導案を作成し、収支計画の目標が達成できるように支援を行います。

新規就農者の営農支援

・・・宿毛市新規就農者サポートチーム・・・



10月17日、宿毛市で農業次世代人材投資事業（経営開始型）を活用している新規就農者のイチゴハウスで、サポートチーム（市、JA、振興センター）での栽培指導を行いました。

前回確認した課題等への対応結果、作業状況の確認や今後の計画等について意見する中で、農業改良普及課からは、今後の栽培管理等について情報提供を行いました。

今後も、サポートチームで定期的な指導や状況確認を実施し、経営計画目標を達成できるように支援を行います。

基盤整備実施地区での集落営農法人設立に向けて

・・・利岡ファーム役員会・・・



10月17日、四万十市の利岡ファームで役員会を行い、組合員10名、四万十市2名、振興センター4名が出席しました。

利岡地区では経営体育成基盤整備事業に取り組んでおり、基盤整備後の法人設立と農地集積を目標としています。

役員会では法人設立地区説明会（10月30日）に向けた協議を行い、土地の集積計画や法人の運営方針など、地権者に説明するための内容の確認や役割分担を行いました。

今後は、令和2年1月の法人設立総会開催と法人登記に向けて支援していきます。

新品目で地域の活性化を

・・・ 実証栽培ワサビの初収穫 ・・・



10月18日、四万十市わさび栽培協議会がハウスで実証栽培を行っているワサビ（水ワサビ）の収穫調査を実施しました。

平成29年12月の定植から1年10か月の間、夏の暑さや病害虫の被害を無事に乗り越えての収穫となりました。

大きいもので20cm近くに成長したワサビは、抜取り後洗浄され、1本ずつ重量や長さなどを調査しました。辛みや風味など品質が重視されるワサビですが、地元の飲食店組合に協力を依頼（アンケート調査）し評価してもらう予定です。

収穫調査は今後数か月間続きますが、農業改良普及課では、調査の実施や実証成果のとりまとめについて支援を行います。